

## リハビリテーション病院における 小児リハ部門の現況と課題

き さ とし ろう さか い やす お  
木 佐 俊 郎 酒 井 康 生

キーワード：発達支援，小児リハビリテーション，発達障害，療育，  
リハビリテーション専門病院

### 要 旨

小児リハ部門開設より2年5カ月の間に258例の受診があり，この内244例（94.6%）にリハ療法を行い，DQ（IQ）が多くの症例で向上し，とくに発達障害系では向上例が79.3%と高く，ADLもWee FIMが82.3%の症例で向上するなど好成績を得た。リハ診療終了例は，初診からの追跡期間を2013年8月末まで延ばすと，初診した368例のうち107例（29.1%）であった。この内，リハ療法終了例は244例中86例（35.2%）で，内訳は目標達成が62.8%，転居が18.6%，中断が18.6%であった。当小児リハ部門は県中部の発達支援の医療拠点として90%以上を補足していると推定され，子育て支援に大きな貢献をしている。しかし，事業報酬となる医療保険はじめ代価が低く，経営的には苦しんでいる。発達トラブル発症は10人に1人と高頻度となり教育・福祉・就労行政からみても大きな課題となっている。システムの経営収支が均衡するにはあと3年を要すが，それまでに事業が崩壊しないよう緊急の行政支援を要請する。

### はじめに

当リハビリテーション（以下リハと略す）病院の存在する出雲地域は周辺地域を含めると人口が約20万人余りあり，県人口の約3分の1を集積する。近隣の島根県立中央病院，島大病院にはNICU・ICUもあり障害リスク児が県下から集められる。しかし，相応のリハ療法などの療育指導を行う専門医療機関が無く，遠方の松江が江津まで通わなくてはならなかった。こうした療育体制未整備が長く続いている現状に対して改善を望む

声があがり，それに当法人が応じ，発達・療育支援システムを2009年7月に開設した。開設から4年余り，今年度は図1に示すような体制で運営している。誕生した発達・療育支援システムのうち，小児リハビリテーション（以下，リハと略す）が妥当な成果を挙げつつあるか検証し，今後の流れを整備する目的で本研究を行った。

### 対象と方法

2012年11月末までのところで，他施設からの紹介または親自らが児の発達に不安をもち当院へ受診，発達に歪みまたは遅れありと診断し，発達トラブルの軽減や発達向上目的でゴールを示し，リハ療法（週2～月1回）を含む療育を開始した